

すべては子どもたちの笑顔のために



響

No. 9

東信教育事務所だより

〒384-0006 小諸市与良町 6-5-5

TEL. 0267-31-0250 (代)

FAX. 0267-31-0140

<http://www.pref.nagano.lg.jp/toshinkyou/index.html>

平成 30 年(2018 年) 2 月 20 日(火) 発行



今年度も残り 1 ヶ月あまりとなりました。子どもたちが、この 1 年間の成長を実感して、卒業、進級できるようなまとめをしていきましょう。

	ページ	シリーズ	内容
No. 9 の 内 容	1 p	学校の組織づくり 2	・「日常的に授業改善を図る学校」の雰囲気をつくるために (研究主任の役割)
	2 p	学習指導要領改訂 3 「特別の教科 道徳」 3	・「見方・考え方」とは ・児童生徒の学習状況の評価について考える
	3 p	もっと知ろう特別支援教育 4 いじめ・不登校の現状と課題 3	・配慮を要する児童生徒の年度末「引き継ぎ」を確実に！ ・SSWを「もっと」活用しましょう！
	4 p	生涯学習課より	・「子どもが育つ地域共有フォーラム」について 他

学校の組織づくり 2

今回は、「日常的に授業改善を図る学校」の雰囲気をつくるために、研究主任がどのような役割を担ったかについて、B小学校の例を紹介します。

本年度の授業改善の方向を決め出す

昨年度

「授業のねらいと終末の子ども意識がずれてしまう」という先生方の反省がある。どうしたらいいかな？

今年度

授業構想シートを使って、「ねらいを達成した子どもの姿」を具体的にしたらどうだろうか。

全職員で授業構想シートを活用してみる

授業の流れのまま書いたほうがいいのでは？



書きにくいのはどんな点ですか？

終末の部分が最初にあると書きにくくて…



研修会やってみますか？

ねらいや主眼もあればいいんじゃないかな？



いいアイデアですね。

先生方の取り組みや困っていることを、校長・教頭に伝える。



研究主任



校長・教頭

先生方が困っていることにアドバイスしたり、研修会の調整をしたりする。

研究主任の動き

構想シートを活用する中で、先生方の悩みを受け止め、改善のために校長先生・教頭先生に相談しながら、研修の場を設けたり先生方のアイデアを取り入れたりして授業改善を進めました。

先生方が「ねらいを達成した子どもの姿を具体的に」という共通の視点をもって実践したことにより、ねらいを達成した子どもの姿をもとに授業を振り返ったり、子どもの学びの過程を議論したりすることができました。
研究主任として、先生方の声を「受け止め、共に連携し、認め合う」ことで、先生方のつなぎ役になりました。



研究主任

授業実践を続けるうちに…

「ねらいを達成した子どもの姿」が決まると学習の流れを意識して授業を進められました。



研究主任



授業の終末が子どもの姿で語り合えるようになってきたな！

「ねらいを達成した子どもの姿」が見えてくると発問や教材の検討にそれほど時間がかからないよ。



学習問題・学習課題がハッキリすると子どもたちが活発に話し合っていたよ。



新学習指導要領では、「見方・考え方を働かせ」という文言が示されています。その「見方・考え方」とは何なのでしょう？

各教科等の特性に応じた見方・考え方のイメージとして、以下のようなことが各教科等の学習指導要領解説に示されています。今回は国語、算数、体育より抜粋しました。

○対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること【言葉による見方・考え方】

○事象を数量や図形及びそれらの関係などに注目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること【数学的な見方・考え方（算数）】

○運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること【体育の見方・考え方】



このように「見方・考え方」とは、各教科等における習得・活用・探究という学びの過程において“どのような視点で物事を捉え、どのように考えていくのか”という、物事を捉える視点や考え方のことになります。

シリーズ「特別の教科 道徳」3

「特別の教科 道徳」に向けて
～児童生徒の学習状況の評価について考える～



？ 発言や学習カードの記述以外に、学習状況の評価することはできますか？

→ 教師や他の子どもの発言に聞き入ったり、考えを深めようとしていたりする姿に着目するなど、発言や記述ではない形で表出する姿に着目することも重要である。(小学校学習指導要領解説道徳編)

『クラスの大へんしん』（「どうとく2」光村図書）

内容項目C「よりよい学校生活、集団生活の充実」

友の発言をもとに考えを深める姿



① クラスの変化を表した2枚の場面絵をもとに「よいクラスになるためにはどのような気持ちが必要なのか」を考えさせる教材。

1 小学校2年生



- ① 教師が『一人一人が勝手に振る舞っているクラス』の場面絵を提示すると…
- ② B児「いじわるしている人は楽しい気持ちで、されている方はかなしい気持ち。」
↓
- ③ B児の発言に聞き入っていたA児は、しばらく学習カードを書かずにじっと場面絵を見つめて考えていた。その後、2人は以下の発言をした。
A児「いいクラスはみんなが楽しい。」
B児「クラスのみんなが楽しくなるように、やさしくし合うといい。ぼくもそうしてみたい。」

【評価】B児の発言を受け、もう一度じっくりと絵を見つめ、いじわるをされている子へと視野を広げて「みんなが楽しくないと、よいクラスとは言えない」と考え始めたA児。それは自己を見つめ、道徳的価値の大切さを感じとり、道徳的実践意欲を高めたB児の姿へとつながっていきました。

すべての児童生徒の学習状況を毎時間把握していくことは容易なことではありません。顕著な姿を何名かずつ座席表に蓄積していくなど、校内で計画的・組織的な取組を工夫していきましょう。

進級・進学を控えたこの時期、配慮を要する児童生徒に関する「引き継ぎ」に関する会議等がよく行われます。新学期のスタートがスムーズにされるように、そして学校間や諸機関、また校内での連携がとりやすくなるように、「引き継ぎ」を確実に行いましょう。

引き継ぐ際のポイント

【児童生徒の全体像をしっかり把握】

用紙1枚程度に「引き継ぎ概要」をまとめるとよいでしょう。

【スタートが肝心！】

新学期スタート時の、具体的な支援内容を確認しましょう（登校・始業式・入学式・第1週の動きなど）。

【強みでマイナス面をカバーできます】

不安な所（マイナス面）に目が行きがちですが、プラス面の引き継ぎを大切にしましょう。

【困ったら問い合わせが可能な環境を作ります】

それまでに関わった職員が分かるようにしておきましょう。

児童生徒によっては、より詳細な情報を引き継ぐ必要があります。場合によっては、引き継ぎ内容に関して、保護者と共通理解を図っておく必要があります。

引き継ぎをしっかり行い、これを新しい学習環境で生かすことが、児童生徒の自信をつけ、自己肯定感や学習意欲等を高めていける姿につながっていきます。



「特別支援教育コーディネーターハンドブック（H25/3月発行・水色表紙）：P50～59」も参考にしてください。

いじめ・不登校の現状と課題

☐ その子のための ☐ 支援の ☐ W 輪（わ）

SSW（スクールソーシャルワーカー）を「もっと」活用しましょう！

東信教育事務所では、現在5名のSSWが活動中です。SSWは、いじめ、不登校、暴力行為などの背景にある家庭的な問題に対して、その環境を改善するために必要な専門機関との連携をコーディネートする福祉の専門家です。



Q：SSWを利用する際に保護者の許可が必要ですか？

A：SSWは、児童生徒や保護者との「つながり方」も含めて相談に応じます。



Q：問題が表面化（顕在化）してから支援要請をしたほうがよいですか？

A：早期に支援を開始することが早期の解決につながります。早めにご相談ください。

SSWの主な職務

- 子どもを取り巻く環境のアセスメント（情報収集、見立て）
- 保護者や教職員への社会福祉や精神保健福祉の制度等に関わる助言
- 家庭訪問や専門機関への同行を含めた家庭支援（援助）
- スクリーニング会議やケース会議への参加（情報共有や助言）
- 要保護児童対策地域協議会との連携（地域福祉行政との連携体制の構築）

社会教育

「学社融合フォーラム」が

「子どもが育つ地域共育フォーラム」に名称が変わります

これまで開催されてきた「学社融合フォーラム」ですが、1月12日に開催された実行委員会で、「より趣旨が伝わりやすい会合にしていきたい」と名称変更の提案があり、話し合った結果、来年度から「子どもが育つ地域共育フォーラム」として開催されることになりました。

これには子どもが豊かに育つ地域となるために、学校、家庭、地域でそれぞれ自分たちに何ができるか、主体的に考えていきたいとの願いが込められています。「地域の子どもは地域で育てる」。それぞれの活動が横に広がりながら、子どもが豊かに育つ地域を作っていこうとするその中に、「協働」が生まれてくると思います。

私たちの願いはすべての子どもたちの笑顔と健やかな成長です。学校と地域の連携・協働がさらに進み、信州型コミュニティスクールが充実していくため、本フォーラムへのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

生涯スポーツ振興

障がい者スポーツに興味ありませんか？ リオパラリンピックで注目を浴びた「ボッチャ」について紹介します。

ボッチャは、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障がい者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。

ジャックボールと呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。

障害によりボールを投げることができなくても、勾配具（ランプ）を使い、自分の意思を介助者に伝えることができれば参加できます。競技は男女の区別なくのクラスに別れて行われ、個人戦と団体戦（2対2のペア戦と3対3のチーム戦）があります。

障害の程度によりクラスが分かれており、同じクラスの選手同士が対戦します。

東信教育事務所には3セットあります。学校で体験してみたいかがでしょうか。貸し出しいたします。ご相談ください。



社会人権教育

「出前講座」の現場から ～ある街の人権宣言～

生涯学習課の重点の一つ「出前講座」。下の写真は、人権教育の「出前講座」で公民館にお邪魔した際に掲示されていたもので、講座の始めに全員で読み上げられました。

二十年ほど前、区でおこった差別事件で街全体が暗い気持ちになったことを憂いた当時の区長さんたちが、街に明るさを取り戻したいと、知恵を絞って考え出されたものだそうです。

人権尊重を根本とした街づくり。それは、学級づくりや学校づくりにおいても共通です。

